



東洋の思い出の縁側

——電車・利用客・駅職員が主役の地下鉄 / 脇役としてのランドスケープデザイン——

1) コンセプト - 主役は 3 者 -

電車が主役のホーム

銀座線のホームは、車両が主人公として映えると同時に、銀座の歴史を感じるレトロなデザイン、安全性を確認しやすい配光計画を考えます。

利用客の安心感・視認性が得られる駅

改札の場所を認知しやすい要素、照明効果により情報端末に頼らなくても、安心感と視認性を得られる、まるで街並み（パサージュ）のような駅になります。地下空間に、ランドスケープデザインの手法を応用します。

駅職員が誇れる地下鉄

駅で働く職員のサービスや仕草が、魅力的に感じる窓口・背景を象徴的にデザインします。子供達のあこがれの職業・職場になるような臨場感を演出します。本提案では、以上 3 者が主役となるような、「脇役としての駅」のデザインを考えます。

円形のピクチャー ウィンドウから見通す銀座も印象的。下りてみようか。

メトロマークを強調する切妻屋根

天窓による十分な採光

安心感

裏地としての煉瓦

高さに対する差

機能性

通行人

高齢者に優しい手すり

安心感

銀座口上屋

2) デザインのポイント - 縁・円・光の川 -

地下の「縁側」

日本の伝統的な「縁側」を応用し、「歴史」「おもてなし」「誘引」「関係性」を感じる地下の中間領域をつくります。また「縁側」は、利用者・駅職員のコミュニケーションを促します。

煉瓦・スチール・木が織り成す東洋の駅

まるで洋服の裏地のような地下へ導く壁は、銀座の近代化（煉瓦街）を感じる機能的で重厚な《煉瓦》、天井（縁側）は日本古来の伝統美を感じる《木の化粧》（不燃加工木材）を素材としたデザイン、その両者を調停しつつ引き締める《スチール》の黒色フレームが地下空間にモダンな東洋のリズムを与えます。

改札を暗示する「円」と「光の川」

床面には、2箇所の改札口を中心同心円が描かれ、外国人や高齢者にも解りやすい形態で改札の位置を暗示してくれます。また天井（縁側）に内蔵された照明によって、リズミカルな影が床に映り、幻想的な「光の川」となって改札まで導いてくれます。これらシンプルな知覚要素で、脇役としての地下鉄のランド（アンダーグラウンド）スケープデザインを実現し、電車・利用客・駅職員が主役の利用しやすい駅となります。

3) ランドスケープデザインによる効果

通過点から思い出の縁側へ

地下鉄の駅構内は、利用者にとって単なる通過点になりかねません。本提案では、ランドスケープデザインの手法を取り入れることで、体験する駅となり、利用者にとって居心地を感じる駅になります。そのことによって、3つの主役は「機能性」「安心感」「視認性」「象徴性」を得ることができます（詳細はイメージバース参照）。本提案によって、地下鉄が銀座の街の「結節点（ノード）」と繋がり、数々のドラマが重なる「思い出の縁側」となることを願います。

都市の結節点としての駅 + 利用者の体験としての駅

機能性	安心感
視認性	象徴性

